

立教大学コミュニティ福祉学部

福祉学科：学生による学びの報告



学びの報告 1

卒業生の声：P2-P4

2019 年度に卒業し、現在、病院で医療ソーシャルワーカーとして働いている卒業生から、学びの経験と現在の仕事についてご報告します。

学びの報告 2

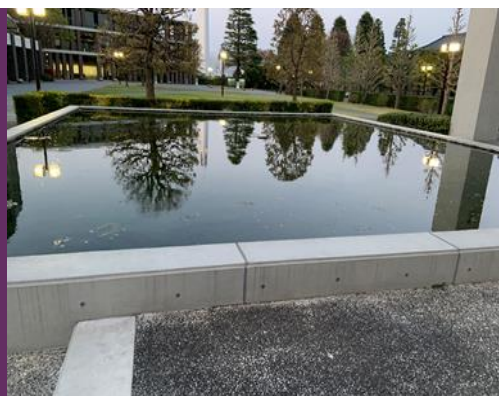
卒業生の声：P5-P6

2018 年度に卒業し、現在、社会福祉協議会で働いている卒業生から、学びの経験と現在の仕事についてご報告します。

学びの報告 3

在学生の声：P7-P9

現在、4 年次生である現役の学生から、大学生活での学びの経験と、現在、どのような道を志しているかについてご報告します。



2020 年度
立教大学：教育懇談会

岡島 里花子さん

・2019 年度卒業生

・現在の勤務先：

札幌市内の脳神経外科専門病院

医療ソーシャルワーカー



1. 福祉学科を選んだのは、どのような理由からですか？きっかけになりましたか？

現場実習と国家試験



ゼミ合宿

コミュニティ福祉学部福祉学科を選んだ理由は、社会福祉の世界にとっても興味があったからです。

私は今まで、人に助けられたり、逆に頼ってもらったりしながら生きてきたという感覚がすごくあり、そのような人と人との間に生まれる温かな空間を心地良く感じていました。

そして高校生になり、将来自分がどう生きていきたいかを考えた時、そのような心地よさに近いものを感じた社会福祉の分野に自然と関心をもつようになりました。私も人がほっと安心できるような存在でありたいな、と思ったのが大きな理由の1つです。

2. 大学生活での学びや実習を通して、自分なりに取り組んだこと、頑張ったことはどのようなことですか？

現場実習と国家試験

大学3年生の時に取り組んだ現場実習では、2か所の医療機関に行かせていただきました。現場では、様々な問題を抱える患者様やご家族、その中でソーシャルワークを体現している方の姿を目の当たりにし、机上の勉強だけでは知り得なかったことを多く学ぶことができました。そしてこれらの体験は、ソーシャルワーカーを心から志すようになったきっかけにもなりました。

また、国家資格である社会福祉士を取得するべく、大学4年生の時には受験勉強に励みました。19科目という膨大な範囲で、合格率も3割程度という難関な試験。勉強は物理的にも精神的にも本当に大変でしたが、晴れて合格できた瞬間は本当に気持ち良かったです。4年間の学びを形にできたという意味でも、受験して良かったと感じています。



札幌での実習：病院にてゼミ教授と

一生の仲間たちとの出会い



香川県での医療ソーシャルワーカーの学会にゼミで参加

助け合い、時には楽しい事をたくさんして、かけがえのない仲間となりました。現在は皆一社会人として立派に働いていますが、集まると大学生の頃に帰ったような気持ちになります。これからもこの関係性を、大切にしていきたいです。

福祉学科では途中から、高齢者・児童・障害者など、領域ごとに分かれて少人数での授業が始まります。私は医療ゼミだったのですが、そこでは実際に現場で出てくる医療用語や社会制度はもちろん、対人援助職としての心得を学んでいました。ゼミで学んだことは、今、私が仕事をする上での基礎となっています。

また、そこで出会ったゼミの仲間たちとは、日々の勉強だけでなく、実習や就活・国家試験を一緒に乗り越えてきました。さらに、ゼミの後には先生の研究室で鍋パーティー、誰かの誕生日には毎回サプライズをし、ゼミの合間には延々とおしゃべり、長期休みには先生も含めて家族旅行のような旅……。本当にたくさんの思い出があります。時には真面目にお互い

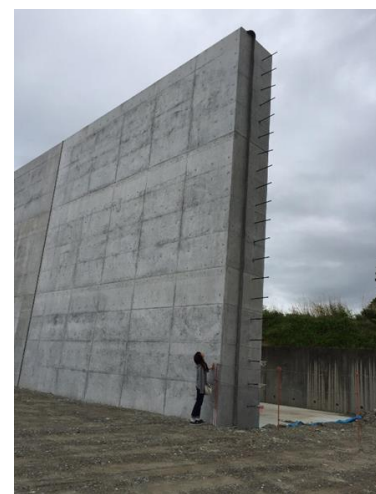
3. 学業や実習以外で、大学生活のなかで取り組んだこと、頑張ったことはどのようなことですか？

被災地に足を運び続けた4年間

大学1年生から4年間、大学が主催していた東日本大震災復興支援活動に参加していました。被災地のことをもっと知りたい、何かできることがあればしたいという思いから活動に参加するようになったのですが、活動では実際に目にした景観やリアルな体験談から、震災当初から現在に至るまでをより鮮明に知ることができました。また、人との出会いも多くあり、何回も通い関係性ができていく中で、「人を想う」「寄り添う」ということはどれ程難しく、素晴らしい事なのかと実感することができました。現地の方とは、卒業した今でも文通をしたり電話をしたりと、交流を続けています。



陸前高田で津波到達地点に上り高さを実感する



新しい防潮堤の高さを実感（陸前高田市）

自由な時間を有意義に



ニューヨークで新年を

大学生活は自由な時間が圧倒的に多かったので、アルバイトや映画祭のインターン、旅行など、多くの新しい経験をすることができました。特に旅行に関しては、時間を見つけては国内・海外問わず様々な場所に行きました。その土地の文化に触れ、新しいものを見るというのは、本当に刺激的で楽しくてたまりません。特に海外旅行は、長期的な休みを作りやすい大学生だからこそ行けたのだと感じています。自分の好きな事に向き合ったり、新しい価値観を発掘したりした事は、学業と同じくらい大きな収穫となりました。

4. 現在どのような仕事をしていますか。仕事を通して、どのようなことを感じていますか。

夢だったソーシャルワーカーとしての日々

札幌市の病院で、医療ソーシャルワーカーをしています。なんでまた札幌？とよく聞かれるのですが、大学の先生のご紹介で実習させていただいた病院に、人生の目標としたいソーシャルワーカーの方がいらっしゃり、その方の下で修業すべく、就職させていただき運びとなりました。現在社会人 2 年目になりますが、だんだんと仕事を覚えてきて面白さが増している一方で、「この人にとってのウェルビーイング(よりよいあり方)は何なのだろう」と悩みながら働いている日々です。上手いかず落ち込むこともあります。大学時代、ソーシャルワークの面白さや素晴らしさを、実際に現場で働かれていた先生方から直接聴き、学ぶことができたからこそ、どんな時でも誇りを忘れずに働くことができているのだと思います。

5. これからどのように仕事や生活を進めていこうと思っていますか。考えていることや希望、夢などがあれば教えてください。

好きな自分でいられるように

私はまだソーシャルワーカーとして未熟な部分が多くあるため、これからも精進していきたいと思っています。そしていつか、ソーシャルワーカーとして自信をもつことができた時には、地元に戻って地域の医療機関に貢献していきたいです。

また、結婚や出産等、仕事以外でも叶えたい夢は他にもたくさんあります。これからも貪欲に、仕事も日々の生活も自分らしく過ごせたらと思っています。

笹田 満愛さん

・2018 年度卒業生

・現在の職場

横浜市内の社会福祉協議会



1. 学生時代に頑張って取り組んだことはどんなことですか。

児童福祉を学ぶために

福祉学科に入学したいと思ったのは、小さな頃から誰かを支援する仕事がしたい、特に子どもに関わる仕事がしたい、児童福祉について学びたいと思ったからです。



インドのタラサリにある学校を訪問



インドの学校を訪問

大学生時代には、少しでも誰かの役に立ちたい、子どもに関わる現場について学びたいと思い、児童養護施設で3年間ボランティアをしたり、中学校で発達障害のある子どもたちの支援に入る学習支援員をしたりしました。また、海外の子どもたちへの支援にも目を向けて、インドとフィリピンの子どもたちに学資支援を行うサークルに所属し、実際にインドを訪れたこともありました。どれも学生時代にしか得られない経験であり、その経験は私の財産です。

2. 社会福祉現場実習は、どのような体験でしたか？

将来の進路を考える契機

学生時代に印象的なことの一つとして実習があります。実習では、児童相談所と母子生活支援施設に行きました。児童相談所では、ワーカーの方々がどのように子どもたちとその家族を支援しているのかを学びました。家族再統合に向けての働きかけなどが印象的です。

母子生活支援施設では、母子の日々の暮らしを支える職員の方々が、どのような姿勢で母子と向き合い、入所期間のみにとどまらない退所後のケアがいかになされているのかを学びました。



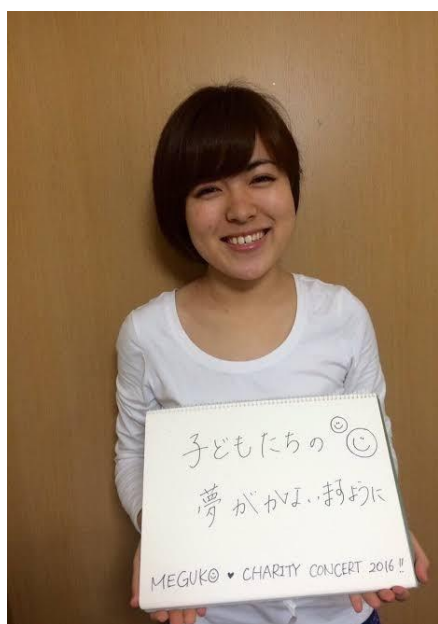
実習報告会

これらの経験は、私にとって、実際の福祉の姿を肌で感じられるとても良い経験となりました。そして、自分自身が、将来どのような立場から支援を行いたいか考える大きな転換期となりました。

これらの経験を、ゼミのみんなと意見を出し合い完成させた実習報告会も印象的です。利用者主体の支援とは、子どもとその家族を取り巻くシステムと、利用者の心に寄り添い伴走する支援者の両者があって初めて成り立つものであると考えました。ゼミのみんなでも何度も何度も色々な角度からの意見を出し合い、その当時出せる自分たちの考えを最大限に提示することができたと思っています。

3. 現在どのような仕事をしていますか。仕事を通して、どのようなことを感じていますか。

コミュニティ福祉を実感できる仕事



福祉学科を卒業し、現在は横浜市内にある社会福祉協議会で働いています。なぜ児童福祉を学んだところを、児童福祉の道ではなく地域福祉の道に進んだかという、実習や大学時代のボランティアの経験を通して、施設に入所している児童に限らず、地域に住まう全ての境遇の児童とその家族を支えたいと考えたからです。

現在入職して2年目となりますが、社会福祉協議会の一員として働かせていただく中で、民生委員さんや主任児童委員さん、自治会・町内会の皆さん、地域の中のボランティアの方々などなど、たくさんの方々が地域を支えてくださっていることをひしひしと感じています。例えば、最近小学校の個別支援級に通う障害をもったお子さんの通学支援のコーディネートを行いました。それも地域の中のボランティアの方々がいらしてこそ成り立ちます。

また現在は、コロナウィルスの影響でアルバイト等がなく困窮する学生を救おうというプロジェクトを実施しようとしています。私の働く金沢区には、大学が2つあり、きっと困っている学生がいるはずであり、その人たちに少しでも支援の手が届くように、工夫して取り組んでいきたいと思っています。

夫して取り組んでいきたいと思っています。

地域の中のニーズを地域の資源を生かして解決していく仕組みづくり、地域支援と個別支援の融合こそが、コミュニティにおける福祉、コミュニティ福祉であると感じながら仕事をしています。その支援の一端を担えることに、責任感と喜びを感じながら仕事を行えていることに、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も、地域とのつながり、様々なネットワークの構築を目指して、勤めていきたいと思っています。

小島 弥恵さん

コミュニティ福祉学部 福祉学科

4 年次生



1. コミュニティ福祉学部を選んだ理由を教えてください。

福祉の重要性を感じた経験

私が福祉に興味を持ったきっかけは、高校 1 年生の時に、ALS 患者とその介護者の生活についてのテレビドラマを見たことです。そのドラマで介護の身体的・精神的な大変さを初めて見て、このドラマの介護者のように大変な思いをしている介護者は日本にはたくさん存在し、今後もきっと増加すると思い、介護者を支援する福祉の重要性を認識しました。

その後、高校 2 年生の夏休みに高齢者施設で数日間のボランティアをし、施設職員が発する難しい専門用語を聞いたり、利用者との楽しい会話を経験したりして、素敵な仕事だと感じ、大学で本格的に福祉を学びたいと思うようになりました。また、立教大学は全国的に見てもレベルの高い学校であり、そのなかで勉強することは私にとって良い刺激となり、価値のある学習ができると考えたため、目指すようになりました。

2. 学生時代に取り組んだこと、頑張ったことはどんなことですか。

福祉のおもしろさを実感

入学後、たくさんの福祉の授業を受講していくうちに、これまで「福祉＝介護、障害」と思っていた自分のなかの「福祉」はとても狭く、一部しか見ていないことに気が付きました。それから私は知らなかった新しい福祉の知識を学び、ますます福祉のおもしろさにハマっていきました。

例えば、地域住民を陰で見守る民生委員の存在、赤い羽根共同募金の歴史、社会福祉協議会の業務など、どれも大学で初めて知りました。今では、最初に興味をもった高齢者福祉・障害者福祉から地域福祉に関心が移り、これからも地域福祉に携わっていきたいと考えています。



3 年次のゼミ宿で金沢へ

対人援助を活かしたアルバイト経験

大学生時代、私はアルバイトを熱心に取り組みました。会員制スポーツジムの受付として勤務しており、入会や退会などの手続きや見学希望者の館内の案内、レジ入金などをしています。入会の手続きでは、お客様が何の目的でスポーツジムに入会しようとしているのかを会話の中から聞き取り、それに合わせてご案内も変わっていきます。

例えば、マシンを使って筋トレやダイエットをしたいのか、プールで歩いたり泳いだりしたいのか、ヨガでリラックスしたいのかなど、目的は様々です。ヨガをしたいお客様にマシンを勧めることはお客様のご希望に沿ってなく、また、筋力アップを目指すお客様にダイエットメニューを紹介するのも違います。

そのため、お客様がジムに求めることを案内中の会話から聞き出し、お客様に「このスポーツジムでなら自分の目的で運動できそう」と思ってもらえるようなご案内が最適です。



サークルの合宿で秩父へ行き、川下りを体験

しかし私は、これを習得するまでに時間がかかりました。

どうしてもマニュアル通りの手続きになってしまい、お客様のニーズに合ったご案内をするのはとても難しいことでした。しかし、先輩スタッフに「最初は普通の会話からお客様と仲良くなり、お客様自身が話しやすい環境をつくるといいよ」とアドバイスをいただいてからは、これまで緊張していたお客様との会話が、日常会話を通してお互い笑って話せるようになりました。さらに、福祉学科で学んだ対人援助の方法を活用することで、徐々にお客様の運動の目的を聞き出せるようになりました。

「お客様のニーズを把握する」「ニーズに合わせた対応」というのは、これからの仕事でも活かされると思います。特に福祉の現場では、クライアントのニーズをいかに見出せるかが重要になってくるため、私は以上のようなアルバイトでの経験を活かしていきたいと思っています。

3. 卒業後の進路や将来の夢を教えてください。

地域住民の暮らしを支える

私は地方公務員の福祉職を目指しています。きっかけは授業と社会福祉現場実習です。生活保護を受給しながらギリギリで暮らしている人や、奨学金やアルバイト代で学費や生活費を払いながら学校へ通っている大学生などの密着番組を授業で見て、自分とのギャップにかなりの衝撃を受けたことを覚えています。

それから、福祉実習で生活困窮者自立支援を間近で見て、自分が知らなかっただけで、経済的な格差は地域中で起きているのだと分かりました。以上のことから、私は地域住民の生活を経済的な側面から支援して自立の手助けをしたいと思い、公務員を志すようになりました。試験勉強は大変なこともありますが、最後まで精一杯努力したいと思っています。

さらに、仕事面以外でも興味・関心のあることに積極的に取り組みたいと考えています。現在、私は卒業論文を執筆している最中であり、そのテーマはジェンダー・セクシュアルマイノリティについてです。執筆を終了し、大学を卒業しても、ボランティアや交流会への参加を通して、ジェンダー問題に関わっていきたいです。

4. コミュニティ福祉学部で学んできて、いまどのようなことを感じていますか。

かけがえのない友人とともに

私は立教大学の福祉学科に入学できて本当に良かったと思っています。その理由として、質の高い授業と学生思いの先生方はもちろんですが、何より友人の存在が大きいと思います。

福祉学科では、国家資格に必要な授業の関係で、学科のほとんど全員が同じ授業を受講することが多いのですが、1年生で「バ이스ティックの7原則」という福祉の現場でのクライアントとの関わり方を学び、その原則は福祉の支援者の大前提であると理解します。

そして、「個別化」、「意図的な感情表現」、「統制された情緒関与」、「受容」、「非審判的態度」、「自己決定」、「秘密保持」、これらを学んでいくうちに、私を含め友人たちは無意識に日常生活で実践していると思うのです。私自身、この原則のおかげで大学生になって考え方が変わりました。例えば、友人から相談された際、きっと高校生までの私だったら、こうし



友人と静岡県浜松市のフラワーパークで交流

たほうが良いとか、ああしたほうが良いと助言していたでしょう。しかし、今ではその相談をまず受容、共感し、友人が本来したいこと、そしてそれが上手くいかず悩んでいる原因や葛藤と一緒に見つけ出すことができます。

また、私が友人に相談する際にも、友人は同じように受けとめ、一緒に悩み、私の話す言葉の細部まで耳を傾けてくれます。このような友人の優しさに私は何度も救われました。感じ方や受け取り方は違っていても、授業で同じ刺激を受けてきました。そのため、私も友人も、人との関わり方で重要なことを理解していると思います。だから、友人としての信頼関係や、一緒にいることの安心感があるのだと思います。

相談するとはいっても、ただ話を聞いて欲しいだけの時には「話を聞いて」と言えて、喝を入れて欲しい時にはアドバイスを求めることができ、甘えたいときには甘えられます。そのようなことができる信頼関係と、自分の弱みを打ち明けても離れていかないという安心できる関係性を、福祉を学ぶ仲間と共につくることができました。

大切な友人と一緒に学ぶ福祉だからこそ、たまにはお互いの「福祉観」を語りながら積極的に学習できるのだと思います。この大学生活で得た友人は、これからもずっとかけがえのない存在です。